

## 学会員（教員）研究動向 [2005.4～2006.3]

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
秋葉 武	論文(单著)	「台頭するNPO—新しい社会福祉の担い手として」(加藤直樹ほか編『人間らしく生きる福祉学—はじめて学ぶ人の社会福祉入門』(MINERVA福祉ライブラリー77)、ミネルヴァ書房)174-181頁	2005.4
	論文(单著)	「地方自治体とNPO—事業委託をめぐる」(『日本経営診断学会論集』5巻、日本経営診断学会)190-199頁	2005.10
	論文(单著)	「公共組織(NPO・行政組織)におけるインターンシップ」(『インターンシップ研究年報』第8号、日本インターンシップ学会)1-7頁	2005.5
	書評(单著)	「塚本一郎ほか編『NPOと新しい社会デザイン』同文館、2004年」(『ノンプロフィット・レビュー』5巻1号、日本NPO学会)67頁	2005.6
	その他 (雑誌記事)	「イギリスに見る協働の模索」(『NPOジャーナル』Vol.9、関西国際交流団体協議会)30-31頁	2005.4
	その他 (雑誌記事)	「指定管理者制度とNPO」(『NPOジャーナル』Vol.11、関西国際交流団体協議会)2-5頁	2005.10
	学会発表 (単独)	「中間支援NPOのサービスの多元化」(日本経営診断学会第38回全国大会個別報告 2005/10/01、於:久留米大学)	2005.10
	講演	「指定管理者制度とNPO、行政」(わかやまNPOセンター/和歌山大学生涯教育研究センター主催、於:和歌山大学)	2005.6
	講演	「NPOにとっての指定管理者制度」(「NPOのための指定管理者セミナー」(社福)大阪ボランティア協会NPO推進センター/ (特活)関西国際交流団体協議会主催、於:大阪NPOプラザ(大阪市福島区))	2005.10
	講演	「概論:政策提言の様々なパターン」(2005年度「政策提言力向上セミナー:NPOの政策提言力を高めよう!」、市民活動センター神戸主催 於:神戸市立総合福祉センター(神戸市中央区))	2005.10
	講演	「行政とCSO(市民社会組織)との協働の現状と課題」(佐賀県庁 県民協働推進研修、於:佐賀県庁)	2006.3
	講演	「ソーシャル・マーケティングとは何か」((財)生協総合研究所主催 2005年度第5回公開研究会、於:コーププラザ(東京都渋谷区))	2006.3
	荒木 穂積	論文(单著)	「新しい人権としての発達保障—人間の安全保障から発達保障へ」(加藤直樹ほか編著『人間らしく生きる福祉学—はじめて学ぶ社会福祉入門』、ミネルバ書房)148-156頁
論文(单著)		「21世紀の子ども研究—Yale大学Child Study Centerの場合」(『障害者教育科学』51号、科学的障害者教育研究会)67-77頁	2005.7
論文(单著)		「発達診断の方法論的検討」(『心理教育相談センター年報』第4号、立命館大学心理教育相談センター)21-29頁	2005.9
論文(单著)		「『発達保障』の誕生と国際的潮流—「教育の改革」(ランジュヴァン・ワロン改革案)(1947)の提案と国際民主主義教育運動の影響」(『人間発達研究所紀要』第17号、人間発達研究所)126-133頁	2005.9
著書(共編著)		『キーワードブック障害児教育—特別支援教育時代の基礎知識』(クリエイツかもがわ、かもがわ出版)	2005.11
論文(单著)		「発達障害の診断と学校・家庭における支援」(『季刊ひろば』第145号、京都教育センター)4-8頁	2006.1
論文(单著)		「コミュニケーションの発達と注意共有機構—三者関係の成立をめぐる」(『障害者問題研究』33巻4号、全国障害者問題研究会)2-9頁	2006.2

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
荒木 穂積	学会発表 (共同)	「自閉症児のSAM(共有注意機構)の形成と早期療育—表象機能の発達と時期区分」(第17回日本発達心理学会, 於:九州大学)	2006.3
	学会発表 (共同)	「自閉症児のSAM(共有注意機構)の形成と早期療育Ⅱ—言語発達とコミュニケーションの分析」(同上)	2006.3
有賀 郁敏	論文(単著)	「初期トウルネン協会運動における社会参加と相互扶助—トウルナー消防団の活動を中心に」(山口定他編著『現代国家と市民社会—21世紀の公共性を求めて』, ミネルヴァ書房) 258-282頁	2005.11
	論文(単著)	「子どもの安全と人々の共同に支えられた地域づくり」(『子どもを守る桂坂学区安全白書2005』(京都市「地域の安心安全ネットワーク形成事業(平成17年度)報告書, 桂坂学区自治連合会安全推進委員会) 5-20頁	2006.3
生田 正幸	論文(単著)	「福祉の情報化—情報とITの活用でよりよい福祉社会をめざす」(加藤直樹・ほか編著『人間らしく生きる福祉学』, ミネルヴァ書房) 118-125頁	2005.4
	論文(単著)	「地方公共団体の保健・福祉情報システムについて」(『月刊LASDEC—地方自治情報誌』Vol.35 No.11(2005.11号), 財団法人・地方自治情報センター) 27-32頁	2005.11
	論文(単著)	「福祉・介護分野における用語と記録の解析に関する基礎的検討—サービス提供記録解析の方法と技術」, 『立命館産業社会論集』41巻4号) 1-24頁	2006.3
	その他(共著)	「(日本福祉介護情報学会第5回大会シンポジウム) 地域ケアを支える新たなテクノロジーと文化—みちのく福祉情報風土記—」(『日本福祉介護情報学会研究誌『福祉情報研究』臨時増刊1号, 日本福祉介護情報学会)	2005.4
池内 靖子	著書(共編著)	『異郷の身体—テレサ・ハッキオン・チャをめぐる』(西成彦共編, 人文書院) 全287頁	2006.2
	論文(単著)	「アングラ演劇におけるマスキュリニティのパフォーマンス—鈴木忠志の「女優論」と佐藤信の「阿部定」劇」(『立命館言語文化研究』17巻4号, 立命館大学国際言語文化研究所) 239-255頁	2006.3
	論文(単著)	“‘The Uncanny, Displaced Triangles’ in <i>Memories of Murder</i> ” (韓国語版), ( <i>Memories of Murder</i> [살인의 추억] (New Wave of Korea Cinema series, 2006), 発行者: Institute of Media & Art in Yonsei University, 出版社: SaeMulKyul, Seoul, Korea), pp. 81-126.	2006.3
	論文(単著)	「『殺人の追憶』における「不気味な, 置き換えられた三角形」」(『アート・リサーチ』Vol.6, 立命館大学アート・リサーチセンター) 81-102頁	2006.3
	論文(単著)	「境界に立つということ」(池内靖子/西成彦編『異郷の身体—テレサ・ハッキオン・チャをめぐる』, 人文書院) 11-40頁	2006.2
	論文(単著)	「チャの映像テキスト」(池内靖子/西成彦編『異郷の身体—テレサ・ハッキオン・チャをめぐる』, 人文書院) 245-264頁	2006.2
	パネル・モデレーターとパネル ストとして報告	“Performances of Masculinity: Gendering Theatre Criticism in Japan,” as part of a panel on “The Politics of Gender and Sexuality in the Underground Theatre Movement in Japan”, (Women’s Worlds 2005 Abstract Book, Women’s Worlds 2005: 9 <sup>th</sup> International Interdisciplinary Congress on Women. Asian Center for Women’s Studies, Ewha Womans University) pp.443-444	2005.6

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
池内 靖子	シンポジウム	京都芸術センターにおける「演劇計画2005」の演劇公演「from DICTEE」(10月18日～28日)の一環としてのシンポジウム「他者の言語と身体」	2005.10
	シンポジウム	立命館大学国際言語文化研究所シンポジウム「映画・女性・権力・ジェンダーと視覚性」(2006, 2, 21.)における池内報告のタイトル「アイデンティティ(脱)構築の迷路—寺山修司の『田園に死す』を中心に」, (冬季企画シンポジウム(立命館大学国際言語文化研究所主催, ジェンダー・スタディーズ研究会/日本文化と視覚性 共催))	2006. 2
石倉 康次	論文(単著)	「社会福祉法人制度改革の論点と課題」(『2005年日本の福祉論点と課題』, 大月書店) 144-149頁	2005. 5
	論文(共著)	「若年世代のジェンダーとセクシュアリティに関する日瑞比較」(『現代と文化』日本福祉大学研究紀要 第112号, 日本福祉大学福祉社会開発研究所) 1-19頁	2005. 8
	調査報告(共著)	『精神障害者と家族の生活問題 調査報告書』(福祉を守る市民会議・広島) 全104頁	2005. 4
	調査報告(共著)	『福祉労働の専門性と現実 児童・障害・高齢施設における業務実態調査第一次報告書』(総合社会福祉研究所 福祉労働研究会) 全253頁	2005.11
乾 亨	論文(単著)	「延藤安弘の思考と実践」の源流をたどる, (延藤安弘編著『人と縁をはぐくむまち育て』, 萌文社) 207-212頁	2005. 8
	その他(共著)	「真野っこが語る真野の歴史」(『日本最長・真野まちづくり』, 真野まちづくり推進会) 1-38頁	2005.11
	その他(共著)	「市民参加こんなえーやん宣言!? 京都市市民参加推進フォーラムからの提言」(京都市市民参加推進フォーラム)	2006. 3
	その他(共著)	「団地再生のための効果的手法の調査(その2) —経年変化したコーポラティブ住宅の評価/ユーコート20年をふりかえって—」(独立行政法人都市再生機構西日本支社・(財)住宅管理協会関西支部・NPO 法人まちの緑側育くみ隊)	2006. 3
文 楚雄	論文(共著)	「アメリカ・ロサンゼルスにおける日本人コミュニティ」(中国・『思想戦線』2005年第3期 No.3, 『思想戦線』雑誌社) 65-70頁	2005. 5
	著書(共著)	『楽しい中国語会話—中級』改訂版 (晃洋書房)	2006. 3
	著書(共著)	『楽しい中国語会話—初級』 (晃洋書房)	2006. 3
遠藤 保子	調査報告(単著)	「ケニアの舞踊—ボーマス・オブ・ケニアを中心として」(『スポーツ人類学』第7号, 日本スポーツ人類学会)	2006. 3
	論文(単著)	「新しいダンス教育のために—ケニアのダンスを通して」(『体育科教育』第53巻第10号, 大修館書店, 東京) pp.28-31	2005.10
	講演(共同, 国外)	「Presentation of Motion Capture Result」(Public Presentation of Motion Capture Project, 於: ナイジェリア国立劇場シネマホール2)	2006. 3
	講演(共同, 国外)	「Presentation of Motion Capture Result」(Public Presentation of Motion Capture Project, 於: ベニン大学学生ホール)	2006. 3
	学会発表(単独, 国内)	「ケニアの舞踊と音楽—伝承法を中心として」(日本スポーツ人類学会第7回大会, 於: 筑波大学東京キャンパス)	2006. 3
岡田 まり	論文(単著)	「ソーシャルワーカー社会福祉実践」(加藤直樹他編著『人間らしく生きる福祉学』, ミネルヴァ書房) 126-135頁	2005. 4

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
岡田 まり	調査報告 (共同)	「調査の概要」「考察」(京都市福祉ボランティアセンター 交流促進ワークショップ委員会編『京都市民のボランティア活動についての意識調査』, 京都市福祉ボランティアセンター) 1頁, 61-64頁	2006. 3
	学会発表 (共同, 国内)	「高齢者の日常生活満足度簡易スケールの開発: スケールの妥当性と信頼性の検証」(岡田進一・岡田まり第14回日本健康教育学会講演集, 2005. 8. 26-27 福岡大学) 176-177頁	2005. 8
	学会発表 (共同, 国内)	「過労死家族会の現状と課題」(中野清美・岡田まり日本公衆衛生雑誌第64回日本公衆衛生学会総会抄録集, 2005. 9. 14-16, 札幌コンベンションセンター) 340頁	2005. 9
	学会発表 (共同, 国内)	「維持期における個別リハビリテーションの身体機能・QOLへの効果について」(福谷勇・岡田まり日本公衆衛生雑誌 第64回日本公衆衛生学会総会抄録集, 2005. 9. 14-16, 札幌コンベンションセンター) 848頁	2005. 9
	学会発表 (共同, 国内)	「ボランティア活動についてのイメージと現状—市民への無作為調査から」(岡田まり・藤松素子日本社会福祉学会第53回全国大会報告要旨集, 2005. 10. 8-9, 東北福祉大学)	2005. 10
	学会発表 (共同, 国内)	「非都市部高齢者の日常生活満足度に関連する要因」(岡田進一・岡田まり第3回日本ヘルスプロモーション学会学術大会・総会プログラム・抄録集, 2005. 11. 19-20 北九州国際会議場) 15頁	2005. 11
	学会発表 (共同, 国内)	「地域で生活する精神障害者のQOL(生活の質)と希望」(岡田まり・曾根允・三品桂子・栄セツコ・岡田進一日本精神障害者リハビリテーション学会第13回大阪大会プログラム・抄録集, 2005. 12. 3-4 大阪府立大学) 108頁	2005. 12
	学会発表 (共同, 国内)	「精神障害者の自己決定と生活満足度との関係」(曾根允・三品桂子・栄セツコ・岡田進一・岡田まり日本精神障害者リハビリテーション学会第13回大阪大会プログラム・抄録集, 2005. 12. 3-4) 173頁	2005. 12
学会発表 (共同, 国内)	「包括型地域生活支援のコストパフォーマンスを考える」(久木美智子・高木俊介・石川三絵・大迫晋・三品桂子・岡田まり日本精神障害者リハビリテーション学会第13回大阪大会プログラム・抄録集, 2005. 12. 3-4) 151頁	2005. 12	
小川 栄二	共編書 論文(単著)	『21世紀に語りつぐ社会保障運動』(篠崎次男編著, あげび書房) 全217頁 「高齢者の生活問題」(加藤直樹他編『人間らしく生きる福祉学』, ミネルヴァ書房) 54-64頁	2006. 2 2005. 4
	論文(単著)	「家事援助を検証する(4回連載)」(『シルバー新報』第685号~第688号, 環境新聞社, 2005年5月~2005年6月)	2005. 5 ~6
	論文(単著)	「ホームヘルプ労働の明日を問う」(『福祉のひろば』通巻431号, 総合社会福祉研究所) 30-35頁	2005. 9
	論文(単著)	「高齢者の援助拒否・孤立・潜在化」(『福祉のひろば』, 通巻436号, 総合社会福祉研究所) 24-29頁	2006. 2
奥村 信幸	発表	「放送と通信融合の時代における新しいコンテンツ像について」(ICPC(情報通信政策研究会議)集中勉強会, 於: 中央大学理工学部(東京都文京区))	2005. 5
	インタビュー	「検証・犯罪被害者等基本計画案どう考える? 『実名・匿名』判断」神戸新聞2005年12月22日	2005. 12
小澤 亘	論文(単著)	「多文化共生社会の実現に向けて」(『人間らしく生きる福祉学』, ミネルヴァ書房) 165-173頁	2005. 4

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
景井 充	論文(単著)	「双方向型講義の設計思想—産業社会学部コア科目「人間と文化」での試みから」(『立命館高等教育研究』第5号, 立命館大学大学教育開発・支援センター) 1-15頁	2005.6
木田 融男	論文(単著)	「“社会”概念と市民社会」(『立命館産業社会論集』41巻1号) 49-65頁	2005.6
草深 直臣	論文(単著)	「カール・シュランツの永久追放—ブランドージ・コレクションを手がかりに」(『現代スポーツ研究』No24, 現代スポーツ研究会) 18-22頁	2006.3
國廣 敏文	翻訳(共訳)	「国家の再規模化の政治経済」(ボブ・ジェソップ著, 中谷義和監訳『資本主義国家の未来』第5章, 御茶の水書房) 245-350頁	2005.9
斎藤 真緒	論文(単著)	「今日における子どもをもつ意味変容—イギリスにおける Parenting Education の台頭」(『立命館人間科学研究』第11号, 立命館大学人間科学研究所) 125-135頁	2006.2
	論文(単著)	「人口減少社会」における「子育て支援」の課題, (『月刊看護きろく』vol.12, no.15, 日総研) 58-62頁	2006.3
坂田 謙司	論文(単著)	「現代に通じるラジオの原点とは—想像力のメディアが持つ可能性を探る」(『新聞研究』2005年7月号 (No.648), 日本新聞協会) 44-47頁	2005.7
	論文(単著)	「地域 FM 局の活動から見た公共放送への期待」(黒田勇編『送り手のメディアリテラシー—地域からみた放送の現在』, 世界思想社) 207-224頁	2005.9
	論文(単独)	「教育メディアとしてのラジオの可能性」(全国コミュニティ放送協議会全国大会基調講演)	2006.2
坂本 利子	学会発表 (共同)	「インターネット, TV 会議システム, 対面交流を活用した遠隔交流授業—立命館大学と立命館アジア太平洋大学間の場合」(日本教育工学会第21回全国大会, 於: 徳島大学)	2005.9
	論文(共著)	「インターネット, TV 会議システム, 対面交流を活用した遠隔交流授業—立命館大学と立命館アジア太平洋大学間の場合」(『日本教育工学会第21回全国大会講演論文集』, 日本教育工学会) 661-662頁	2005.9
	論文(共著)	「立命館大学と立命館アジア太平洋大学間の日英語クラス遠隔交流授業」, (『立命館高等教育研究』6号) 1-16頁	2006.3
	論文(共著)	「立命館大学・立命館アジア太平洋大学遠隔交流授業およびアジア学生交流プログラムにおける国際交流—掲示板・チャット記録の分析」(『立命館産業社会論集』41巻4号) 143-154頁	2006.3
崎山 治男	論文(単著)	「欲望喚起装置としての感情労働—感情労働の「再発見」に向けて」(『大原社会問題研究所雑誌566号, 大原社会問題研究所) 1-14頁	2006.1
	論文(単著)	「感情操作一心を通じた社会統制」(船津衛編『感情社会学の展開』第2章, 北樹出版) 35-50頁	2006.1
	学会(単独)	「第八部会「感情・身体」(関東社会学会第53回大会, 於: 立教大学)	2005.6
	シンポジウム (単独)	「感情公共性という構想」(公共哲学・京都フォーラム, 於: 名古屋大学)	2005.11
櫻谷真理子	論文(単著)	「子ども虐待・援助の現状」(加藤直樹ほか編著『人間らしく生きる福祉学—はじめて学ぶ社会福祉入門』, ミネルヴァ書房) 84-91頁	2005.4
	論文(単著)	「虐待者へのソーシャルワーク実践と子どものケアに関する研究」についてのコメント」(『生活指導研究』22号, エイデル研究所 生活指導学会) 27-29頁	2005.10

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
櫻谷真理子	論文(単著)	「児童虐待とひきこもり」(白井利明編著『逃走する若者のアイデンティティ』, ゆまに書房) 244-246頁	2005.12
佐々木嬉代三	講演記録	「社会病理学への道」(『立命館産業社会論集』41巻1号) 5-20頁	2005.6
佐藤 嘉一	論文(単著)	Phenomenological Sociology in Japan Past and Present—with special reference to Alfred Schutz—, (Ilja Srubar & Shingo Shimada (hrsgs.), <i>Development of Sociology in Japan</i> , VS Verlag für Sozialwissenschaften / Wiesbaden), pp.143-163	2005.1
	書評(共著)	「書評に込めて」 「片桐雅隆: (書評) 佐藤嘉一著『物語の中のアイデンティティ』 (晃洋書房)」 (『ソシオロジ』153 50巻1号, 社会学研究会) 146-159頁	2005.5
佐藤 春吉	論文(単著)	「M. ヴェーバーの価値自由論とその世界観的前提—多元主義的存在論の視点による解釈の試み」(『立命館産業社会論集』41巻1号) 67-91頁	2005.6
篠田 武司	調査報告 (共編著)	『労働市場政策におけるスウェーデンと日本の比較研究』(科研研究費補助金研究成果報告書) 全283頁	2005.4
	翻訳(共訳)	(ボブ・ジェソップ)『資本主義国家の未来』(第2章担当, 御茶ノ水書房)	2005.9
	論文(単著)	「人間中心主義社会への転換」(『ラテン・アメリカは警告する』第8章, 新評論) 247-265頁	2005.4
	その他(単著)	「ワークライフバランスからみた労働時間」(『職場の人権』第35号, 職場の人権研究会) 12-17頁	2005.7
芝田 英昭	その他(単著)	「市場主義国家ニュージーランドが教えてくれること①～⑥」(『民医連医療』393～398号, 全日本民主医療機関連合会)	2005.5 ～11
	著書(単著)	『社会保障のダイナミクスと展望』(法律文化社) 全140頁	2005.11
	著書(共著)	『タタミの上で死なせたい』(文理閣) 全240頁	2006.2
鈴木みどり	論文(単著)	「ジェンダーとメディア」(竹内郁郎+小島和人+橋元良明編『新版メディア・コミュニケーション論』14章, 北樹出版) 275-294頁	2005.5
	論文(単著)	「メディア・リテラシーとジェンダー」(北九州市男女参画センター編『ジェンダー白書3「女性とメディア」』第3章, 明石書店) 62-83頁	2005.5
	学会発表 (単独, 国内)	「メディア社会の日常を生きる市民の映像メディア活動—子ども, 女性, シニア市民」(日本学術会議第19期・芸術学研究連絡委員会シンポジウム「アートのカラ文化変容の可能性」, 於: 京都大学)	2005.6
	学会発表 (単独, 国内)	「メディアにおけるジェンダー主流化」(平成17年度(第4回) JICA ジェンダー主流化政策のための行政官セミナー, 東京)	2005.6
	学会発表 (単独, 国内)	「メディアの『受け手』から能動的な『読み手』へ—メディア報道を中心にメディア・リテラシーを考える」(秋田市女性学習センター/秋田市民のメディア研究会共催講演会)	2005.7
	学会発表 (単独, 国内)	「メディア・リテラシー入門講座—視点を変える・メディアの「受け手」から能動的な「読み手」へ」(函館市女性センター主催講座, 函館市女性センター)	2005.8
	学会発表 (単独, 国内)	全体会・基調講演「いま求められるメディア・リテラシーとその方向性」(第6回大阪教育大学教育実践フォーラム「ひろげよう! メディア・リテラシー教育」, 於: 大阪教育大学)	2005.8

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
鈴木みどり	学会発表 (単独, 国外)	New Directions for Media Monitoring and Advocacy: Country Report from Japan, (Asian Network of Women in Communication (ANWIC アジア女性コミュニケーション・ネットワーク) 主催国際会議 <i>NEW DIRECTIONS FOR MEDIA MONITORING AND ADVOCACY</i> , マニラ)	2005.11
	学会発表/主権 (共同, 国内)	「D. バッキンガムに新著 Media Education: Literacy, Learning and Contemporary Culture について」(「子どもとメディア・リテラシー立命フォーラム」京都・立命館大学)	2006. 2
高垣忠一郎	論文(単著)	「近年の少年犯罪の背後にひそむものについての一考察」(『生活指導研究』NO.22, エイデル出版・日本生活指導学会) 32-45頁	2005.10
	著 書 (分担執筆 8章)	「不登校(登校拒否)問題—どうとらえどう取り組むか」(『人間らしく生きる福祉学』, ミネルヴァ書房) 75-83頁	2005. 4
高木 正朗	論文(共著)	「近世国家の人口とその趨勢—仙台藩郡方・一関藩村方人口の復元: 1668-1870年」(『立命館大学人文科学研究所紀要』No.87, 立命館大学人文科学研究所) 7-39頁	2006. 3
	資 料 研 究	「近世国家の文書管理—18-19世紀中期・仙台藩の『人数帳引合』」(『同上』No.87) 227-281頁	2006. 3
	新 聞 記 事	「大凶作時の支援分析—19-20世紀人口史を研究」(岩手日日新聞・朝刊, 岩手日日新聞社)	2006. 3
高橋 正人	論文(単著)	「家族問題と福祉」(加藤直樹, 峰島厚, 山本隆編著『人間らしく生きる福祉学』, ミネルヴァ書房) 44-52頁	2005. 4
	論文(単著)	「家族」(井上勝也『高齢者の心理がわかる Q & A』, 中央法規出版) 54-61頁	2005. 4
	論文(単著)	「老いと家族」(山根常男, 玉井美知子, 石川雅信編著『テキストブック家族関係学—家族と人間性』, ミネルヴァ書房) 78-91頁	2006. 3
	論文(単著)	「地域生活と福祉情報」(『学術フロンティア推進事業プロジェクト研究シリーズ11—対人援助学のひろがり』, 立命館大学人間科学研究所)	2005. 3
竹濱 朝美	その他(単著)	「温暖化被害はすぐ目前に, 対策マニュアル作成が急務」(京都新聞『フォーラム京』寄稿, 京都新聞社) 10頁	2005.12
	論文(単著)	「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」(呉世煌・西村多嘉子編『消費経済学体系・3・消費者問題』第9章, 慶應義塾大学出版会) 189-214頁	2005.10
	論文(単著)	「気候変動をめぐる消費者向け環境情報—温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策」(『立命館産業社会論集』41巻2号) 15-37頁	2005.12
辻 勝次	論文(単著)	「大企業における長期雇用慣行の実態—トヨタの場合, 1956-1991年」(『立命館産業社会論集』41巻1号) 27-48頁	2005. 6
津田 正夫	論文(単著)	「コミュニケーション資源を市民社会へ」(『現代思想』34巻4号, 青土社) 166-175頁	2006. 3
	論文(単著)	「NHKにアクセスチャンネルを」(『AURA』06年1月号, フジテレビ編成制作局調査部) 34-37頁	2006. 1

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
津田 正夫	論文(単著)	「市民アクセスの地平～失われた表現とコミュニケーションの回復を求めて～(中)」(『立命館産業社会論集』41巻4号) 25～43頁	2006. 3
	調査報告 (共著)	「京都コミュニティ放送の評価に関する調査報告 市民制作番組の発信と受信の意識」(関連新聞記事『京都新聞』05年12月5日「コミュニティ FM 関心高いが身近でない」, 『毎日新聞』05年12月8日「京都三条ラジオ・カフェ意識調査 地域への関心高める」, 立命館大学産業社会学部津田演習)	2006. 2
	新聞記事 (単著)	連載コラム「放送時評」10回(『京都新聞』, 京都新聞社)	2005. 4 ～12
	講演	「企業ジャーナリズムの変質と課題」(『第48回岐阜県母親大会』, 同実行委員会, 於: 高山短期大学)	2005. 6
	講演とシン ポジウム	「NHKをどう変えるか～市民・研究者とNHKOBが探る」(『第16回放送を語る集い』, 放送を語る会, 渋谷勤労福祉会館)	2005. 8
	講演とシン ポジウム3	「市民社会の公共放送とは何か」(『緊急シンポジウム なぜ受信料を払うのか～「NHK 新生プラン」を問う』放送の公共性のいまを考える全国連絡協議会(放公協), 東京大学)	2005.11
筒井 淳也	論文(単著)	「Factors of Late Marriage: A Survival Analysis of Life Courses for Marriage in Japan」, (『名古屋商科大学論集』vol.49(2), 名古屋商科大学) 223-234頁	2005. 3
	論文(単著)	「Relative Resource or Available Time?: The Analysis of the Household Division of Labor through Multiple Models」(『年報社会学論集』第18号, 関東社会学会) 170-180頁	2005. 8
	翻訳(共訳)	A. ギデンズ著『モダニティと自己アイデンティティ』(ハーベスト社)	2005. 4
	学会発表 (単独, 国外)	「Factors Affecting Life Courses of Young Adults in Japan: Possible Causes for Late Marriage in Recent Years」(American Sociological Association, 100th Annual Meeting, 2005.8, Philadelphia)	2005. 8
	学会発表 (単独, 国内)	「親密な関係性の理論と実証: 『情緒的な満足』についてのモデル」(第78回日本社会学会, 法政大学)	2005.11
	論文(単著)	「夫婦調査で何が分かるか」(SSJDA リサーチペーパーシリーズ, No.34, 東京大学社会科学研究所)	2006. 3
津止 正敏	調査報告 (共編著)	『障害児の放課後保障とネットワークー全国・障害児の放課後活動団体調査報告書』(障害のある子どもの放課後保障全国連絡会), 全102頁	2005. 9
	論文(単著)	「地域福祉とネットワークー人と人がつながる力」(加藤直樹他編著『人間らしく生きる福祉学ーはじめて学ぶ人の社会福祉入門』, ミネルヴァ書房) 22-31頁	2005. 4
	その他	「2005年を放課後元年にー障害児の放課後保障の現状と課題」(『みんなのねがい』No4.463, 全国障害者問題研究会) 50-51頁	2006. 1
	その他	「放課後保障の環境の大きな変化ー「障害児の放課後活動団体に関する調査」結果より」(『同上』No4.464) 50-51頁	2006. 2
出口 剛司	論文(単著)	「パルマコンとしてのニヒリズム: 後期エーリッヒ・フロムにおける『攻撃性』研究の視点から」(ギュンター・ベルトナー, 渋谷治美編著『ニヒリズムとの対話: 東京・ウィーン往復シンポジウム』, 晃洋書房) 123-146頁	2005. 4

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
仲井 邦佳	論文(単著)	“Construcción proporcional del español: <i>Cuanto más...tanto más</i> ” (スペイン語の比例構文 <i>Cuanto más...tanto más</i> について) (『ロマンス語研究』38, 日本ロマンス語学会) 27-36頁	2005.5
中井 美樹	論文(単著)	「社会階層と社会参加—社会的地位の獲得における組織のメンバーシップの意味と役割」(尾嶋史章編『現代日本におけるジェンダーと社会階層に関する総合的研究』, 文部科学省研究報告書) 53-63頁	2005.4
	論文(単著)	「ライフイベントの統計分析—イベントヒストリー分析」(『立命館産業社会論集』41巻2号) 77-85頁	2005.9
	論文(共著)	「無作為抽出(ランダムサンプリング)による社会調査実施の手続き—京都市の女性調査から」(『同上』41巻3号) 175-183頁	2005.12
	学会発表	‘Socioeconomic and age differences in women’s cultural consumption: Multidimensional preference analysis’, (JGSC2005)	2005.9
	研究会発表	「社会調査士資格にかかわるプログラムの展開と課題—調査実習教育と計量的データ分析教育を中心に—」(第20回社会情報調査の方法に関する研究会「社会調査環境と社会調査士教育—量的調査における現状と課題」, 於: 札幌学院大学)	2006.2
	学会発表	‘Women’s Occupational Mobility and Segregation in the Labour Market: Asymmetric Multidimensional Scaling’ (30th Annual GfKI Conference)	2006.3
中川 勝雄	論文(単著)	「地域社会と住民生活」, (加藤他編著『人間らしく生きる福祉学』, ミネルヴァ書房) 138-147頁	2005.4
長澤 克重	研究ノート(単著)	「19世紀初期の庶民の生命表—狐禅寺村の人口・民政資料による」(『立命館大学人文科学研究紀要』87号) 215-226頁	2006.3
	学会発表(単独)	「産業・職業分類の変容」(経済統計学会第49回全国総会, 2005年9月3日, 於: 立教大学池袋キャンパス)	2005.9
	論文(単独)	「電子商取引と統計」(野澤正徳・田上博司・伊田昌弘著『インターネット時代の経済・ビジネス』, 税務経理協会) 233-254頁	2005.10
中村 正	論文(単著)	「家庭内暴力の加害者への対応」(『コミュニティ心理学研究』8巻1&2号, 日本コミュニティ心理学会) 41-48頁	2005.4
	論文(単著)	「暴力加害に向き合う—ジェンダーと男性性の視点をとおして」(『精神療法』31巻1号, 金剛出版) 184-186頁	2005.4
	ゲストシンポジスト	「踏みとどまること・踏みこえること」(第19回日本語臨床研究会大会, 於: 甲南大学)	2005.4
	論文(単著)	「臨床社会学試論—社会病理学との関係において」(『立命館産業社会論集』41巻1号) 93-109頁	2005.6
	その他(座談会記録)	「脱暴力の統治—DV問題をめぐる国家/社会/男性性の権力作用」(『情況』2005年6月号, 情況出版) 138-161頁	2005.6
	論文(単著)	「DV暴力加害への対応をめぐって—更生的援助ニーズと司法臨床」(『立命館大学心理・教育相談センター年報』4号, 立命館大学心理・教育相談センター) 63-70頁	2005.9
野田 正人	論文(単著)	「十四歳未満の子どもへの警察による調査をめぐる若干の課題」(『法律時報』957号, 日本評論社) 81-85頁	2005.6
	書評(単著)	石川義之著「家族による性的虐待 近親姦の実態と病理」, (『現代の社会病理』20号, 日本社会病理学会) 121-124頁	2005.9

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
野田 正人	論文(単著)	「子どもの安全について考える」(『都市問題研究』662号, 都市問題研究所) 29~39頁	2006. 2
	学会発表	「児童虐待への援助」(日本プライマリーケア学会, 於: 京都国際会議場)	2005. 5
	学会発表	「大阪府におけるスクールソーシャルワーク派遣事業の背景」(日本スクールソーシャルワーカー学会, 於: 目白大学)	2006. 3
	調査報告 (共著)	「高齢者・障害者の悪質商法被害と権利擁護」(高齢者・障害者の権利擁護研究会)	2005.10
東 自由里	論文(単著)	「コミュニティの再創造: 1990年代のニューヨーク市における市民活動」(『立命館国際地域研究』24巻, 立命館大学国際地域研究所) 87-100頁	2006. 3
	調査報告 (単著)	「ユダヤ系コミュニティとミュージアム」(『CISMORE VOICE』特集: ニューヨーク(秋号3), 同志社大学一神教学際研究センター) 7-11頁	2005.11
	学会発表 (単独・国外)	“Towards a Shared Historical Narrative in Korea and Japan,” (The Japanese Occupation: Sixty Years after the End of the Asia-Pacific War Conference, Sponsored by Singapore History Museum and Singapore Ministry of Education)	2005. 9
	論文(単著)	「9・11事件と摩天楼博物館」(『博物館研究』40巻 No.7, 日本博物館協会)	2005. 7
	論文(単著)	“Les deux aspects des memoriaux consacres a la guerre au Japon”, (Memorial Museums, ICOM 国際博物館協会 International Committee of Memorial Museums for the Remembrance of Victims of Public Crimes (ICMEMO)), pp.22-27	2005. 4
	学会発表 (単独・国外)	Picassos for Peace: The Sakima Art Museum, (International Peace Museum Conference, Gernika Spain)	2005. 5
	新聞記事	戦後六十周年特別企画「刻まれる戦争: マンチェスターの帝国博物館, 英国」(京都新聞 朝刊 文化欄 15面, 京都新聞社)	2005. 9. 8
	新聞記事	同: 「テレジン記念館, チェコ共和国」(同上 15面)	2005. 9. 1
	新聞記事	同: 「国立ディー・デイ博物館, 米国」(同上 9面)	2005. 8.25
	新聞記事	同: 「国立アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館, ポーランド」(同上 8面)	2005. 8.18
	新聞記事	同: 「侵華日軍731部隊罪証陳列館, 中国」(同上 9面)	2005. 8.11
	新聞記事	同: 「オーストラリア国立戦争記念館」(同上 14面)	2005. 8. 4
	新聞記事	同: 「釜山博物館, 韓国」(同上 11面)	2005. 7.28
	新聞記事	同: 「屋外博物館 “恐怖の場所” ベルリン」(同上 11面)	2005. 7.21
	新聞記事	同: 「佐喜真美術館」(同上 11面)	2005. 7.14
	新聞記事	同: 「ゲルニカ平和博物館」(同上 11面)	2005. 7. 7
	新聞記事	「中国東北地方の戦争史跡を訪れて」(同上 13面)	2005. 5.16
翻訳(単訳)	“The Imperial Succession and Japanese Democracy: Citizens’ Court Challenge Denied” Original text, Tanaka Nobumasa, (Japan Focus, Ed. Mark Selden)	2006. 2	
黄 盛彬	論文(単著)	「韓流と東北アジアの政治」(松野周治, 徐勝, 夏剛編著『東北アジア共同体への道—現状と課題』, 文真堂) 203-224頁	2006. 3
	論文(単著)	「2002W杯と日本の自画像, そして韓国という他者」(有元健, 小笠原博毅編著『サッカーの詩学と政治学』, 人文書院) 175-210頁	2005. 9
	論文(単著)	「日韓「文化と政治」その乖離構造」(国際シンポジウム『東アジアに発信され拡散する韓国文化力の可能性』, 立命館大学コリア研究センター)	2006. 2

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
黄 盛彬		「韓流と政治」(シンポジウム『アジア文化の多様性と韓流コンテンツ』, 韓国・木浦大学校, アジア文化研究所主催)	2005.5
深澤 敦	論文(单著)	「バリ地域(家族手当)補償金庫の形成—1920-1945」(『西欧福祉社会の形成と展開』, 平成14年度～16年度科学研究費補助金(基盤研究(B))(1))研究成果報告書)92～99頁	2005.4
	学会発表(単独)	「バリ地域(家族手当)補償金庫の形成と展開」(社会政策学会 総合福祉部会, 於: 京都府立大学)	2005.7
宝月 誠	論文(单著)	「もうひとつのアメリカ社会学の可能性—シカゴ学派の narrative な方法」(大野道邦・油井清光・竹中克久編『身体社会学』, 世界思想社)79-92頁	2005.7
	論文(单著)	「大学院の変容と大学院生」(『現代のエスプリ』460号, 至文堂)142-151頁	2005.11
	論文(单著)	「シカゴ学派の方法論の可能性—社会学的ナラティブを目指して」(中野正大研究代表編『現代社会におけるシカゴ学派社会学の応用可能性』, 平成14年度—平成17年度年科学研究費補助金(B)研究成果報告書)55-72頁	2006.3
イアン ホザック	学会発表(単独, 国内)	Teaching Democracy as a Universal Value, (Peace As a Global Language — 4th Annual Conference Kyoto Sangyo University	2005.11
前田 信彦	論文(单著)	「欧州における長期休暇制度—ワーク・ライフ・バランス政策の試み」(『日本労働研究雑誌』540号)47-54頁	2005.7
	論文(单著)	「定年後の職業観: 定年文化の変容とアクティブ・エイジング」(『社会学評論』56巻1号)55-72頁	2005.6
	論文(单著)	「定年退職への移行と生活の質(Quality of Life)—ジェンダー比較分析」(『立命館産業社会論集』41第1号)111-130頁	2005.6
	論文(单著)	「子育て支援の国際比較」(『人間らしく生きる福祉学』, ミネルヴァ書房)157-164頁	2005.4
増田 幸子	論文(单著)	「日韓合作ドラマが描く『恋愛』」(『比較文化研究』No.69, 日本比較文化学会)47-59頁	2005.10
	翻訳(共訳)	ダーク・スハウテン/ロブ・ワトリング著『メディア・アクション・プロジェクト—参加型学習とまちづくりのためのメディア実践モデル』(解放出版社)全117頁	2006.3
松田 亮三	学会発表(国内, シンポジスト)	シンポジウム『次世代の管理者たちに託すもの』「医療政策の行方と看護管理者への期待」(『看護』58巻臨時増刊号, 第36回日本看護学会(看護管理))191-201頁	2005.11
	論文(单著)	「政策課題としての健康の公平」(『公衆衛生』69巻7号, 医学書院)603-605頁	2005.7
	論文(共著)	「日本の高齢者—介護予防に向けた社会疫学的大規模調査(11) ソーシャルキャピタルと健康」(『同上』69巻11号)914-919頁	2005.11
	論文(共著)	“Differences in higher-level functional capacity between participants and non-participants in health checkups among the elderly” (Archives of Gerontology and Geriatrics. Volume 42, Issue 2, Elsevier Science) pp.175-189	2006.3
	学会発表(単独)	「公平からみた医療改革—国際比較研究に向けての枠組み」(『保健医療社会学論集』16巻特別号, 日本保健医療社会学会)40頁に抄録掲載	2005.5

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
松葉 正文	著書(共編著)	『現代国家と市民社会：21世紀の公共性を求めて』（ミネルヴァ書房）	2005.11
	論文(単著)	Japan's Foreign Trade and Direct Foreign Investment in Recent Years: Putting the Relations with the US and China in the Center, (『立命館国際研究』18巻1号) 149-165頁	2005.6
	論文(単著)	「日本の貿易と直接投資の展開：近年の対米・対中関係を中心として」(『立命館産業社会論集』41巻2号) 1-13頁	2005.9
	論文(単著)	「市民社会と経済的不平等：予備的考察」(『現代国家と市民社会：21世紀の公共性を求めて』, ミネルヴァ書房) 219-238頁	2005.11
	論文(単著)	「日本の戦後史・断想(2)：国家・市場・市民社会」, (『立命館産業社会論集』41巻3号) 185-201頁	2005.12
峰島 厚	論文(単著)	「障害者自立支援法案の問題点と課題—グランドデザイン施策の分析を中心に」(『手話通訳問題研究』91号, 全国手話通訳問題研究会) 38-45頁	2005.4
	著書(共編著)	「障害者の脱施設化—地域での自立生活保障に向けて」(峰島厚他編『人間らしく生きる福祉学』, ミネルヴァ書房) 101-108頁	2005.4
	著書(共編著)	「障害者自立支援法で何がどう変わるのか」(峰島厚・白沢仁, 多田薫編『障害者福祉制度改革なにが問題か—障害者自立支援法と私たちのねがい』, 全障研出版部) 1-44頁	2005.5
	論文(単著)	「障害者自立支援法で何がどう変わるのか」(東京市政調査会編『都市問題研究97巻2号』, 東京市政調査会) 4-8頁	2006.2
	著書(共著)	「障害者自立支援法, どう臨むのか」(障害者自立支援法に異議あり, 応益負担に反対する実行委員会編『金ないモンから金とるな』ウインかもがわ出版) 35-38頁, 74-77頁, 123-137頁, 157-160頁	2006.2
	その他	「提言 課題多い障害者自立支援」(京都新聞2006年3月14日, 京都新聞社)	2006.3
森田 真樹	論文(単著)	「社会科教育研究におけるグローバル教育についての考察」(『社会科教育研究』(日本社会科教育学会編) No.95, 日本社会科教育学会) 80-90頁	2005.9
	論文(単著)	「社会科誕生のドラマとその背景」(『教育科学 社会科教育』No.555, 明治図書) 12-15頁	2005.9
	論文(単著)	「課程標準版歴史教科書の内容構成の特色」(『中国の教育課程改革と新しい教科書—歴史教科書を中心に』諸外国の教科書に関する調査研究委員会(中国部会)最終報告書, ((財)教科書研究センター編)) 65-84頁	2006.3
	学会発表	「学校インターンシップの成果と課題—2005年度立命館大学の実践を中心に」(2005年度京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会 合同研究発表会, 於：佛光大学)	2006.2
	学会発表	「社会系学会と国際理解教育」(日本国際理解教育学会 第5回コロキウム)	2005.10
森西 真弓	論文(単著)	「上方芸能の戦後六十年」(『上方芸能』158号, 『上方芸能』編集部) 3-23頁	2005.12
	論文(単著)	「上方歌舞伎を彩った名優群像」(『同上』159号) 3-20頁	2006.3
門田幸太郎	学会発表(共同, 国内)	「両親のしつけ態度や教師の指導態度に関する日中間比較(1)—子どもの認知を通じた分析」(日本教育心理学会(浅井学園大学))	2005.9

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
門田幸太郎	学会発表 (共同, 国内)	「両親のしつけ態度や教師の指導態度に関する日中間比較(2)——子どもへの影響についての分析」(日本教育心理学会(浅井学園大学))	2005.9
柳澤 伸司	論文(单著)	「(新聞を教材に楽しく学ぶ NIEの実践から)ファミリーフォーカス社会の出来事を家庭内で話題に」(『公明新聞』公明党機関紙局) 5頁	2005.4
	論文(单著)	「(同) 小学校の活用例 社会への関心広げるきっかけに」(『同上』) 5頁	2005.5
	論文(单著)	「(同) 中学校の活用例・同一記事を比較し, 違いを分析」(『同上』) 5頁	2005.6
	論文(单著)	「(同) 高校の活用例 積極的な意識の芽生えを促す」(『同上』) 5頁	2005.7
	論文(单著)	「(同) 清里フォーラム 新聞の社会的価値めぐり討論」(『同上』) 5頁	2005.8
	論文(单著)	「(同) 情報の提供 わかりやすい紙面を各紙が工夫」(『同上』) 5頁	2005.9
	論文(单著)	「(同) 各社の取り組み ウェブサイトに多彩な活動紹介」(『同上』) 5頁	2005.10
	論文(单著)	「(同) 良い読者とは」(『同上』) 5頁	2005.11
	論文(单著)	「(同) メディアの論争 豊かな社会つくるのは読者の見識」(『同上』) 5頁	2005.12
	調査報告 (单著)	「北欧(外国新聞の概況)」(日本新聞協会編『日本新聞年鑑05-06』, 電通) 92-93頁	2005.11
	学会発表 (共同)	「課題研究 マルチメディア時代におけるNIEの可能性～なぜ今もNIEなのか～」(日本NIE学会, 大阪教育大学天王寺キャンパス)	2005.11
山下 高行	著書(单著)	The changing field of Japanese sport, in Joseph Maguire and Masayoshi Nakayama (eds.) Japan, Sport and Society: Tradition and Change in a Globalizing World, pp.157-176., (London, Routledge)	2006.2
	翻訳(共訳)	「社会的再生産と勤労福祉国家」(『資本主義国家の未来』ポプ・ジェソップ, 中谷義和監訳, 第四章, 御茶の水書房) 199～243頁	2005.9
山本 隆	論文(单著)	「地域福祉とローカルガバナンス—公共圏を担う福祉アクターの交流」(山口定編著『現代国家と市民社会』, ミネルヴァ書房) 283-312頁	2005.11
	論文(单著)	「介護保険制度における市町村の役割—準市場との対比を通して」(『介護福祉学会誌』Vol.12 No.1, 日本介護福祉学会) 74-83頁	2005.10
	翻訳(共訳)	「『資本主義国家の未来』ポプ・ジェソップ著(中谷義和監訳)(御茶の水書房, 第6章, 御茶の水書房) 307-349頁	2005.9
	調査報告	「京都府下市町村における介護保険実態調査—市町村の役割を再考する」(『立命館産業社会論集』41巻2号) 109-123頁	2005.9
	学会報告・ 討論者	社会政策学会 国際交流分科会 「ブレア政権下の英国社会政策」(社会政策学会第110回大会)	2005.5
	研究会報告	文科省・科研プロジェクト基盤研究(C): イギリスにおける医療・福祉サービス連携による質確保と予算管理システムに関する研究—ケアマネジメント, 中間ケア, トラストに焦点を当てて	2005.6
	ゲストスピーカー		
リム ボン	論文(共著)	「土地所有関係の変遷から見る在日コリアン集住地区の形成過程に関する研究」(日本建築学会計画系論文集, No.599, 日本建築学会) 95-102頁	2006.1
	論文(共著)	「物登記からみる新宿区職安通り地区の韓国系商店の特徴」(『都市住宅学』51号, 都市住宅学会) 65-70頁	2005.10
	論文(单著) (学会発表)	“Developing Communities with Medical Institutions: The Activities of Japan Medical Cooperative”, (11 <sup>th</sup> International Conference of the European Association for Japanese Studies, University of Vienna)	2005.8
和田 武	論文(单著)	「再生可能エネルギー普及の意義と課題」(『人間と環境』Vol.31, No.3, 日本環境学会) 120-124頁	2005.4

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
和田 武	論文(単著)	「持続可能な社会に向かって一移行の道筋を描く」(日本科学者会議公害環境問題研究委員会編『環境展望 Vol.4 —サステイナブル社会への日本の選択』, 実教出版) 14-37頁	2005.10
	論文(単著)	「自然エネルギー普及の現状と課題」(『じっきょう』No.61, 実教出版) 7-10頁	2005.10
	論文(単著)	「地球温暖化による危機は回避できるか?」(『日本の科学者』第40巻, 第4号, 日本科学者会議) 4-9頁	2005.4
	論文(共著)	「地方自治体における市民参加型地球温暖化対策を推進する仕組みと社会的背景～滋賀県野洲町の事例をもとに～」(『立命館産業社会論集』41巻2号) 39-55頁	2005.9
	学会発表 (共同)	「インドにおける再生可能エネルギー普及の特徴と意義」(日本環境学会第31回研究発表会要旨集, 日本環境学会) 11-14頁	2005.7
	学会発表 (共同)	「インドにおける再生可能エネルギー利用による地域社会の新たな発展」(日本環境学会第31回研究発表会要旨集, 日本環境学会) 15-19頁	2005.7
	学会発表 (共同)	「地域自治体における温暖化防止活動の取り組み—滋賀県野洲市小南自治会の事例から」(日本環境学会第31回研究発表会要旨集, 日本環境学会) 3-6頁	2005.7
	学会発表 (共同)	「市民共同発電所運動の現状, 課題とその展望」(日本環境学会第31回研究発表会要旨集, 日本環境学会) 7-10頁	2005.7